

第2回 SKIP シティ利活用検討委員会 会議録

日 時 令和3年9月24日（金） 午後1時30分～2時30分

場 所 川口市役所第一本庁舎 601大会議室

出席者 （委員） 児玉委員長、岡村副委員長、内田委員、粟生田委員、伊藤委員
石川委員、熊井委員、布施委員、石渡委員、小平委員、安田委員
江口委員、栗原委員、川田委員、野崎委員

（オブザーバー） 埼玉県商業・サービス産業支援課 大熊課長

（事務局） 江原室長、青羽室長補佐、井ノ上主任、稲垣主事

（運営支援） 三菱総合研究所 西松氏、山口氏、加納氏、遠藤氏

議事録

1. 開会

2. 挨拶

（委員長） 本日はアンケート・ヒアリング調査の結果報告とそれを踏まえて SKIP シティに求められる機能を検討したい。NHK で整備される4スタジオがすべて稼働すると800人程度が訪れるようだ。大いに活性化が期待できるので、SKIP シティのよりよい利活用について、忌憚のないご意見をいただきたい。

3. 議題「SKIP シティに必要とされる機能について」

別紙資料に基づき、事務局から説明。

【質疑応答】

（委員） 利活用する上では、施設機能の整備だけではなく、人が重要。先ほどエリアマネジメントの話があったが、エリアマネジメントはコーディネートする人がいないと成立しない。箱の機能だけではなく、持続可能な人の機能を担保していく仕組みを考えていく必要がある。キッチンカーを誘致するにしても、SKIP シティに合った人たちを呼んでくるのに人の手当てが大事であり、そのことを意識した記述が入っていると持続的な発展につながると思う。

2点目として、来たくなるような空間づくりを意識するべき。SKIP シティにはウォーキングで利用している方も多い。今の世界的な都市

づくりのトレンドとして、歩きやすさと連動させることが重要となつてきており、歩きやすさも考えていく必要がある。ヒアリングで広場が大事だという話もあったが、人が自然と外に出てきて交流しあえる空間は、公共の側の責任として整備する必要がある。

3点目として、目的地としての重要性がある。多目的ホールとあったが、多目的であるほど意外と誰も来ないということもあり、ここを目的として来るといふものをつくる必要がある。多目的だと立地のいいところに負けるので、映像技術等自分たちの強みをより強調したものが必要。

最後に質問が2点。1点目は、既存のインキュベーション施設に入居されている方が何をメリット・デメリットと考えているかがもう少しはっきりわかると次の展開につながると思うがどうか。

2点目は、エリアマネジメントの原資がどこにあるのかが抜けており、どのように考えているのか教えてほしい。

(事務局)

検討しているところと検討できていなかったところがあり、今後検討していきたい。

人としての機能については、企業や学校を含めて、SKIPシティでできることを議論している。引き続き議論していきたいと思っている。キッチンカーについても必要とされる状況を見ながら誘致するのか、それとも必要ないのかを検討したい。

行きたくなる空間づくりについては、おっしゃるとおりである。SKIPシティの空間づくりについては、NHKや都市計画の部署と連携して、歩くこともテーマに含めて検討していきたい。

多目的ホールについては、展示会、会議室のスペースが市として必要となっている。展示会だけではなく、映像企業にも利用できるような方法を模索している。

既存のインキュベーション施設については、SKIPシティでは継続的に国際映画祭を開催しているため、海外でSKIPシティは知名度が高く、それがメリットだと認識している。また、10社を超える事業者が入居し、集積していること自体がメリットであると考えている。

デメリットについては、5年が入居上限になっており、SKIPシティで成長した企業が川口市を離れてしまうことであり、市としては損失

だと思っている。

エリアマネジメントについては、これから整備する機能や SKIP シティの既存の機能を含めて、産業振興や映像などの機能別にエリアマネジメントできるように検討している。引き続きメリット・デメリットを調査し、整備する機能を検討していく。

(委員) エリアマネジメントは個別の機能だけでなく、エリア全体として価値が上がるような空間デザイン。

キッチンカーは1つの手段であるが、にぎわいを持続的に様々な方法によって創出できるのは人しかできない。人がエリアマネジメントにもつながってくる。

(委員) SKIP シティには、中小企業にとって、自社では整備できない研究施設があるのでぜひ今後も続けていただきたい。鋳物や機械、木型など産業は色々あるが、新しい材質を作るための小さな溶解炉などは入れることができないため、市内企業がそういった研究開発できる設備を導入できるようにしていただきたい。

(事務局) 今お話のあった SAITEC は県が運営しているため、引き続き県と連携していきたい。

(委員) デジタル SKIP ステーションが運営しているインキュベーション施設の入居は現在約9割。入居期間の制限がなければ10割に近いと思っている。

これは賃料のメリットだけではなく、デジタル SKIP ステーションが受けた映像関連の業務を入居している事業者へ委託するなどのマッチング支援や SKIP シティのスタジオや編集施設を利用する際に支援するなどのメリットがあることが理由となっている。

スタジオを利用している人はロケ地を探している。B・C街区の開発においてはロケをしやすいまちづくりを意識していただければ、より映像関係者に認知されると思う。

キッチンカーについては、現在もイベントの際に出店いただいているので、出店いただける事業者はいると思う。

スーパーの誘致には、カフェテリアに映像ディスプレイをおいていただくなど SKIP シティ全体を映像のまちとできればよい。

(委員) 産業博物館について、川口で毎年小学生 4000 人程度が工場見学に来ている。そういう事業とうまく結びつけていけば、子供たちに興味を持って市内産業に向き合ってもらえるのではないかと思う。映像については、門外漢であり、その機能があることによって何ができるのか、どういうことをしたいと思っているか、どういう設備や施設が必要なのかということがわからないので、そういったことも詳しく説明いただければわかりやすいと思う。

(委員) インキュベーション施設に入っている人の中には、Youtube を活用して映像発信をしたいという方がおり、支援を行っている。また通販サイトを立ち上げ、そこに映像を活用したいという企業もいる。

(事務局) AR、VR という話をしたが、AR とは仮想と現実を合わせる技術。現実の空間にあたかもそれがあるかのように見せるもの。VR とは現実とは別の仮想空間に入れる技術。その AR/VR スタジオを誘致したいと考えているのは、様々な可能性が広がると思っているから。このような既存の SKIP シティにないような機能を併せ持つことで、SKIP シティブランドの更なる向上につながると考えている。ただ、かなり整備にお金がかかるものであるもので、市で整備することは考えておらず、企業を誘致して運営してもらうことを考えており、現在企業と調整しているところである。

(委員) 基本計画（素案）P1 に記載の NHK と市との土地交換の経緯について確認させていただきたい。整形地と不整形地がどのような経緯で交換されたのか。また、B 街区の西側の土地をどのように活用する予定か。

(事務局) 土地交換について、NHK としては、A 街区の NHK アーカイブスと隣接している B 街区の方が既存の光ファイバーを利用できるなど利便性がよいとのことであった。また、交換に当たり土地家屋調査士か

らB街区とC街区の土地の評価額を出してもらい、評価額に差異がないことから、交換の合意に至った。

B街区の西側の土地は、緑地帯を整備すると同時に、バスの待機所となるような機能を確保したいと考えている。建物を建てる予定はない。

(委員) 基本計画(素案)p10について、「世帯と年代」とある。「世代と年代」ではないのか。

同P8の図5について、イオンモール川口ができていますので、追記していただきたい。

同P7に記載のある幹線市道34号は埼玉高速鉄道の鳩ヶ谷駅では、SKIP橋通りという通称名で紹介している。

(事務局) 近年は血縁関係にない家族も増えているため、世帯という言葉を使っている。

道路名については、通称名を含めて今後検討する。

(委員長) 今既にA街区に映像制作の機能がある。公的施設として新たに映像制作のスタジオを建てると市の負担が大きい。民間企業の誘致によって整備していただかないと成り立たないと思っている。

また、産業振興についても既にA街区にSAITECがある。そことは異なる切り口の産業振興である必要がある。

NHK内の食堂は大規模のものではなく、大部分は今後整備される飲食店を利用することになると思われる。NHKの中のスタジオの見学ができるなど、NHKとの交流が図れるようにすれば、より賑わいが生まれると思う。

(委員) VisualとValueについては限られた人達の集合体となり、賑わいは生まれず、Varietyとは相反するコンセプトだと思うが、事務局の考えを伺いたい。地元の人間がそこに行きたくするような機能を考えないと、限られた人たちが利用するだけで、今とそれほど変わらないと思う。

NHKをメインに考えていると思えるが、コロナ禍で一般の人たちが

個人でも映像配信を行うようになっている。そういった方々も取り込んでいく必要があると考えている。

(事務局)

Visual と Value は限られた方が対象になると思われる。また、NHK の新しい施設も、スタジオということで、演者の方もいることであり、ある程度閉鎖的にならざるを得ないと思われる。その中で、SKIP シティに箱だけ整備しても賑わいは生まれなため、スーパーや飲食など、賑わいを生むための Variety の機能も検討していきたい。

また、今も周辺を歩く、走る人も多いため、そういった方に提供できる機能も考えたい。

個人制作については、作りたいという方やクオリティを高めたいという個人の方にも SKIP シティを利用してもらえるようにしたい。

また、E コマース用のスタジオも整備できるとよい。基本計画の中にもそういった内容を入れていきたい。

4. その他

(事務局)

第 3 回検討委員会は令和 4 年 3 月頃に開催予定。内容は事業手法、パブリックコメント前段階の基本計画を検討したい。

5. 閉会